

【めむろ未来ミーティング】

令和3年10月23日(土)

13:30~14:56

まちなか（中心市街地）活性化

- 参加者 9人
- 芽室町 町長、政策推進課長、商工労政課長、商工労政課長補佐、魅力創造課長、魅力創造課参事、魅力創造課長補佐
- 司会 政策推進課長補佐
- 記録 政策調整係 角屋主事、佐藤主事

- 1 開会
- 2 手島町長あいさつ
- 3 出席職員の自己紹介
- 4 ミーティングシートの説明
- 5 意見交換

■対応等必要事項

下線部分については、対応を要する事項として別途担当部署に対応報告書の提出を依頼します。

意見交換

【ご意見①】

配布資料1. 前期実施計画期間（2019年度から2022年度）における目標欄に「農業を軸とした産業構造による商工業の振興及び企業誘致」と書いてあるが、工業団地における企業誘致は全く足りないと感じている。嵐山に巨額な投資をするのもいいが、もう少し工業団地のことも考えてもらって、今後どういう風になっていくのか。それによって人の流れも変わってくる。嵐山を否定する訳ではないが、その前に必要だったのではないかと思います。団地は120社あ

って、68社が運送業。昔は現在よりも小さい12メートルのトラックが5台から10台であったが、現在は18メートルのトレーラーが主流であり、同じ台数があっても今の敷地では足りず、会社も困っている。会社も工業団地の今後の進め方が分かれば、社員が芽室に家を建てる、芽室に本社を移すなど考えられるが、今はなかなか難しいと感じている。芽室に移住しても、またどこかに行かなくてはならない心配が続いている。そうではなく、「広大な面積を何年後かに用意する」など工業団地に対して具体的な方針を挙げてくれれば、まだまだ誘致ができると思うし、今存続の業者も芽室に移ることもできると思う。その辺も考えてもらったうえで町の活性化を進めていただきたい。工業団地と役場、商工会などがタッグを組んで食事の割り引きや移住したメリットなどいろいろな誘致ができると思う。ただこのまま町の中で活性化を議論するだけでは前に進まないと思う。もう少し違う手を打つ必要があるのではないかな。

【手島町長】

中心市街地というよりは町全体のことについて色々お話ししていただいた。確かに企業誘致というのは非常に重要だと思う。高速道路や高規格道路の延伸などにより、これから運送業の果たす役割というのは非常に大きくなると思う。例えば芽室町は札幌釧路間の間中であったり、北見苫小牧間の間中であったりということ、ハブと呼ばれる交流の場所になると考えており、北海道と工業団地の拡幅拡大について色々とお話はさせていただいている。ただ、周りに農地があり、ご存じだとは思いますが、農地の法の網のかけ方という厳しい課題がある。運送業だけではなく全体には約230社あり、多くの企業から私の方にオファーはきている。新たな工業団地を増やしていくという考え方は正解であると思うし、まちづくりの中でも大きいと思っているため、法の網をうまく外せないかということで交渉させていただいている。簡単にすぐ拡幅ということにはならないかもしれないが、ご意見はよく理解しているので、先ほど申し上げたハブという部分の機能を考えなが

らこの町の役割だとか活性化というものにつなげていきたい。もう少し取り組みを継続させていただきたい。

【ご意見②】

町長と同じ意見でトラック協会内でも十勝のハブは芽室であると考えている。なぜなら8時間労働問題があり、クリアするのに芽室しかない。今後今以上の場所が必要になってくる。早急に解決してほしい。

また、2年間新型コロナウイルスの影響で役場も色々な取組をやってくれたと思うが、うちの工業団地の約半分が運送業で、今直面しているのが燃料の高騰。いろいろな商店街に対する補助も必要だと思うが、工業団地の規模は小さいことから、このままだと運送業が2割くらいなくなると推測する。補助などを考えていただきたい。

【手島町長】

新型コロナウイルスの影響による燃料高騰で厳しいということは理解している。色々な業態にそれぞれ現状を聞く必要があると思っている。感覚論でこの業界が厳しいとかいいとか悪いとかそういうことではなく、親交会や運送業界の方などそういう方々とお話しさせていただきたい。具体的にやれることがあれば行政としてやっていきたい。

【ご意見③】

中心市街地は新型コロナウイルスでイベントができなかったが、イベントを企画できれば人が集まるとは思っている。ただ商店街も高齢化が進み、後継者もいない状態があってディベートが難しい。中心市街地に道の駅ができたらいいと思う。新得町や清水町は先駆けて取り組んでいるが、芽室町はどう考えているかお聞きしたい。

【手島町長】

商工会や商店街の会長など色々な方々ともお話しさせていただき、まちなか応援隊というNPO法人も立ち上げ、その中のご提案として道の駅があるというのは十分認識している。行政として商工会、商

店街、観光物産協会など、地域にお住いの方々とこれからのまちなかをどのようにしていきたいか本格的に議論していかなければいけないと思っている。道の駅も含めたなにか魅力のある拠点を1つ置く必要がある。これをベースに自助努力も含めて皆さんにご協力いただきたい。ただし、行政として完全主導型は避けたいと思っている。その前段として団体も含めた話し合いをさせていただきたい。道の駅に関して否定はしないが、心配な点が2つほどある。1つ目は収支。黒字といわれているところも、実際は町村から運営のためにお金が出ており、私の分析だと売り上げのみで黒字なのは一部である。ネックとなるのはトイレと会議室を365日開けておかななくてはいけないこと。維持管理費も含めて、夏はパイできるとは思うが、冬場は工夫がないと厳しい。年間的に売り上げるものが必要だと思っているので、NPO法人でも、そのような商品の開発も含めて提案していただけたらと思う。経営上の課題だけではなく、どの団体におまかせするのかということもある。2点目は道の駅と愛菜屋を観光スポットとした時に、国道から距離があるということ。いかに呼び込むかという課題がある中で運営していくとなると少し心配な点がある。道の駅を設置するかについての議論は今明確なお答えはできないが、駅の西側の駐車場のスペースなど有効に使えないかなどご提案がある。そのような公的なスペースもどうやって使っていくかは検討していかなければならないため、法人や商店街とも議論していきたい。

【ご意見④】

芽室町は夜の賑わいが無い。特にコロナ禍というものもあるが、残念なのはタクシーが11時で終わるため、スナックなどが11時で閉めざるを得ない。そういうところのサポートというかタクシー業者に何か町から提案などしていただきたい。この2年間どうしてもお客さんが帰らざるを得ない状況が多かった。また、嵐山のことと繋がるが、駅前や中心市街地に宿泊施設がないことで観光客が宿泊せず、夜の街の活性化に繋がっていない。飲食店やスナックは観光客が歩いていない状況となっている。芽室町

は帯広市に近いこともあって、観光客の9割程度は帯広に泊まって、1割程度が嵐山なのではないか。嵐山に泊まると、交通の便が悪くて結局早い時間に帰らないといけない。帯広市に泊まってもJRが動いているうちに帰らないといけない。どうしても夜の街の活性化が進まない。うちの店も昼の接待はあるが、夜の接待はほとんどない。そういった意味で中心市街地に宿泊施設があることで町の賑わいが変わってくると思う。嵐山を新しくするのであれば駅前に宿泊施設を作ってもいいとは思っているのだが、考えを聞きたい。

【手島町長】

夜の賑わいについておっしゃることは理解できるが、新型コロナウイルスの影響で人はどうしても少なく、賑わいはほとんどなかったように思える。ご指摘のあったタクシー業界との連携でいかにサポートしていくかという考え方は一つの案として良いと思うし、そういう業界の方ともお話しする必要があると思う。飲食店に関しては、まだ不十分かもしれないが、私の方としても予算も使わせていただいたと思っている。宿泊施設については、私も芽室町に住んで40年になりますけれども、昔から旅館は何件かあるが大きなホテルはない。例えばチェーン店のホテルは色々調査していると思うが、チェーン店からのお話がないというのが実態で、おそらく帯広市へJRですぐに行けるという感覚はあると思う。私としては、もしチェーン店が進出していただけなのであれば、まちなか活性化とセットにして大きな拠点となりえるので誘致など行いたい。また、おっしゃるとおり観光客は9割帯広市、1割嵐山であると思う。民間企業の話なので、公的なホテルとはならないものであるが、情報を掴みながらしっかりやっていきたい。

【ご意見⑤】

チーズの長原さんが先日フランスでの大会で3位となったり、各企業が色々なものを作っている。芽室町の魅力がたくさんある。これらを集約の上PRしてほしい。

【手島町長】

芽室町は色々な魅力があって、各企業多くの製品がある。先日長原さんにも来庁いただいて、例えばふるさと納税に反映させることなど話させていただいた。お店で集約するというのは難しいかもしれないが、町として発信し、売り出していくようにしたい。今年度から機構改革で魅力創造課を作ったので、これから芽室はこんな元気な企業やお店があるということをどんどん発信していきたい。私たちも知らない魅力が町内にはまだあると思うので、情報を掴んでどんな魅力があるかを整理していかなければならない。そして活かしていきたいと思う。

【ご意見⑥】

5年前に結婚を機に芽室町に住んでいるが、正直、あまり芽室町のことを知らない。今回めむろ未来ミーティングのお知らせをいただいたので参加させていただいた。芽室の花火大会がなくなったが、屋根に火花が散ったことにより苦情が来たことが理由だとの話を聞いた。もし自分の家がそうなってしまったら悲しいが、花火大会が無くなってしまったのも悲しい。小さい子が花火を見れないのは悲しいと思う。もし違う場所で開催できれば嬉しいので、計画していただきたい。

【手島町長】

色々経過はあるが、3年前に一旦中止になった花火大会を青年の方々を中心に実行委員会を作ってもらって、クラウドファンディングというものでお金を集めていただいて開催した。そのときは子どもの数だけ花火をあげようというコンセプトでやってもらった。私も見に行ったが非常に感動した。そして人の力はすごいことだと感じ、若手の方の考え方や行動にも賛同した。2年目以降もぜひ続けていただきたくて、経済的な面においても支援する話をしてきたが、翌年から新型コロナウイルスの影響により2年連続中止という形になってしまった。私は郷土愛を大事にしたいと思っていて、子どもたちが芽室にいる間に何か経験や体験をしたことを覚えてい

られるようなことが必要だと思っている。イベントだけではないが、そういう意味では花火大会はいいことだと思う。せっかく若い人たちが自分たちの力でこういう風にやろうと思ったことを行政主催にする発想はない。ぜひ来年以降の復活に向けて、要望があれば費用のことだけではなく支援するつもりでいる。

【ご意見⑦】

まちなか活性化について、スーパーを無くして八百屋などの小さい個人店がたくさんあった方が賑わうのではないかな。

【手島町長】

中心市街地活性化や商店街活性化という言葉があるが、これからは「まちなか再生」という言葉で統一していきたいと思っている。商店街の皆さまに何もしないということではなくて、商業振興策はこれから行うが、新たなまちづくりという考え方は必要だと思う。昔は芽室の商店街は賑わっていた。ただ、昔と同じ状態に戻すということは現実的ではないと考えている。今の状況の中から賑わいをどのように作っていくかという考え方の中で、何か魅力があり拠点になるものが必要。まちなかの不動産の活用方法やセレクトショップのようなものが何個もあると若い人にも興味を持ってもらえると思う。まず来ていただいて、帰りに食事をしていただける流れを作りたい。

また、嵐山改革を行っており、中には「嵐山さえ儲かればいいのか」というご意見をいただく。そのような考えではなく、嵐山に来ていただく観光客を市街地に引っ張っていくルート化を目指している。そして、町民の方が市街地に来ていただくには、市街地に憩いの場を作り、駐車場も整備するという考えもある。一気にものすごい繁栄は難しいと思うが、徐々に目指していきたい。

【ご意見⑧】

まちなか活性化について、既存の店舗をいかに活用するかが大事だと思っている。このことから、起

業しやすい工夫や支援があるといいのではないかな。

【手島町長】

私も同じ考えで、起業などのチャレンジできる環境を作ることが必要だと思っている。アドバイスいただいている弘前大学北原先生によると、「不動産を中心に物事を考えることが大事なのではないか」という提言をいただいている。市街地の空き地状況を整理することや公共用地を効果的に使うことも必要だと思っている。また、現状では起業に対する支援が足りていないため、これから検討していく。1つの例として、近年流行っているゲストハウスをチャレンジできる物件の整備も良いと思う。ただし、物件を町が全部持っている訳ではないので、今の住宅も含めて混在している中で活用していくことを考えなければならない。「中心市街地」とは法律上6丁目までとなっているが、場所を絞って手を加えていく必要がある。議会では、本通りと2丁目通りを中心としながら考えていくことを申し上げている。

【ご意見⑨】

まちなか応援隊を作る段階からこれまで、複数名の教授にアドバイスをさせていただいているが、芽室町のことをあまり知らない方からの参考意見を尊重しすぎる職員の態度に違和感を感じている。

【手島町長】

まちなか再生に対して町民全体でまちなかを考えていること自体非常にありがたい。NPO法人まちなか応援隊の存在はこれから注目されていくと思うし、意見交換をさせていただきたい。これからは専門家も大事ではあるが、町長と団体の議論が進んでいくと考えている。専門家からはアドバイスをいただいて参考にしているが、あくまで責任があるのは町長と町民になる。役場職員の態度で違和感を感じるところがあったとすれば申し訳ない。私はまちなか応援隊の存在は重要だと思っており、お互い理解、納得できるように進めていきたいと考えている。

【ご意見⑩】

農村部の住民は地域によって、買い物などにおける町内の利用率に差があると感じている。地域によっては帯広に近いところもある。農村部の住民が町内を利用するメリットがあれば利用率も上がるのではないか。

【手島町長】

職員時代に個人的には一部地域でタクシー費用の助成を検討していたこともあったが、税金を使う場合は平等性などなかなか難しい。ただ課題意識は必要だと思う。いかに行政としてできるところがあるのか。入るお金と出るお金、昼の人口と夜の人口、などのデータは必要。東工業団地は他自治体から通われる方が多いため、昼間人口は多いと思うが夜間人口としてはほとんどいないと思う。住みやすい町とは職住近接、働く場所と住む場所が近いと住みやすくなる。芽室の魅力が増すことで、移住者が増えていくことを目指していく。まずは町民の方に市街地に来ていただくことを考えていきたい。

【ご意見⑩】

芽室高校生はJRで大成駅から帯広駅間を利用することが多く、芽室のまちなかへ行く機会が少ないと感じている。高校生など若者を呼び込む取組があれば教えていただきたい。

【手島町長】

高校生がまちづくりに興味を持っていただいている。芽室高校では芽室から通う学生は2割を切っていると思う。他市町村から通学する場合、まちなかにはほとんど行ったことがないという状況であることは理解している。実施できていないが、月1回でもJR大成駅から芽室駅まで無料チケット配布を検討したことがある。現状、呼び込む取組はできていない。ただ、芽室高校生へのアンケートや議会との意見交換などを行っている。中高生に対して今年からジモト大学という取組があり、地元を見直すことや地元のPRについて中高生の考えを聞く活動を6～7人で行っている。そこで出た案を政策の参考にしていくことを考えているため大事にしたい。

アンケートでは企業誘致を求める声が多いが、企業も経営上の問題もあるため簡単なことではない。ただ、魅力づくりを進めていく中で、大手企業のお店ではなくても、魅力のあるお店が増えることで芽室高校生がまちなかに来てくれることに繋がると考えている。他にも高校生から提案などがあれば非常にありがたい。

【ご意見⑪】

せっかくゲートボール発祥の地としているのに全く普及されていないと思う。芽室の魅力を伝えるようなスローガンを立てるのはどうか。

【手島町長】

世界に一つしかないゲートボール発祥の地なので、大事にしていかなければならないと思う。観光についてスローガンを立てることは1つの方法としてある。ゲートボールは高齢者のスポーツというイメージがあり、全国的にも競技人口が減っている。世界的には増えていて、ステータスのある方がやるスポーツになってきている。元々ゲートボールは鈴木さんが戦後に若者のために創設している。原点回帰ではないが、若い世代にやっていただきたいと思っている。

【ご意見⑫】

芽室町には魅力のある店舗がたくさんあると思っているが、店舗はどんな取組をするべきなのか、考えを教えていただきたい。

【手島町長】

町内にどんな魅力があるのか改めて整理する必要がある。行政の情報が全てではなく、民間の方が行っていることも多々あると思う。全て出して魅力づくりの連携ができるのかを考える必要があると思う。それを皆さまで連携した上で、町の魅力創造課において発信し、どのように展開していくか。商店街の皆さまにもプラスになるような取組を考えていきたい。

まちづくりの目指す全体像としてビジョンマップ

を作成しているが、まちなか活性化のイメージ図として、まちなか版ビジョンマップがあると良いと思っている。

【ご意見⑭】

農業者で利用している組合員勘定（組勘）について、Mカードなど商店街で利用できるようにすることは可能か。

【手島町長】

組勘を町として使えるようにできるかは難しい。組勘は北海道だけの制度であるため、Mカード等で使えるかどうかは調査が必要。ただ、農業者の方がまちなかで使いやすい方法として組勘以外でも考えていく必要はある。

14：56 閉会